

2018年度 神戸大学男女共同参画推進室 ユネスコチェアサマープログラム 感想・報告書  
2018 Kobe University Gender Equality Office UNESCO Chair Summer Program Reflection Report

学部・研究科 Faculty/School	学科・コース Course
海事科学部	海洋安全システム科

今回、ユネスコチェアサマープログラムに参加したことで、災害に対する考え方、取り組み方について日本とは異なる点を多く発見することができました。

特に印象に残っているのは、2010年のメラピ火山噴火により被災した村を訪問し、実際に被災した方々のお話を聞いたことです。日本にいてもそのような体験はしたことがなかったため緊張しました。政府の援助が全員に均等に回らなかったことやシェルターを転々としたことなどは日本の被災地でもよく聞く出来事のように感じましたが、日本に比べ発展途上であるインドネシアでのその状況はおそらく私の想像をはるかに超えるひどさだったのではないかと考えました。被災地を観光地化することで、被災前よりも生活が潤っていることにも大きく驚きました。大学の先生による講義の中でも災害のメリットとして観光地化ができることとあげられていました。日本の場合、災害が起き、大きな被害を被った地域があると自然に国民全体が自粛ムードとなり、旅行や外食をする人が減り、その結果経済的なダメージも大きくなってしまふことがよくあると思います。被害の記録として後世に伝えていくことは非常に重要なことです。しかし、その方法として観光地化して利益を得るというのは、前向きな考え方であるとは思いましたが、日本人の私には少し不謹慎にも感じてしまいました。

また、砂防ダムを訪れた際に、砂防ダムの中が畑になっていて、すぐ近くに家があり子供がいて、そこにも人々の暮らしがあることにも驚きました。日本でも大きな砂防ダムを見たことがありますが、砂防ダムの中はただ整備されただけ、もしくはサッカー場としてたまに利用されるだけといったものしか見たことがなく、近くには人がほとんどいません。民家は少し離れたところにあります。災害が発生した際に、被害を食い止めるために作られた砂防ダムの中やすぐ近くで生活するということは、そこにいる人々だけ災害時に被害を受けてしまう可能性があり危険なのではないか、政府はもう少し厳しく規制した方がいいのではないかと思います。

また、2週間という長期間インドネシアに滞在したことで、多くの人々のやさしさ、親切さに触れることができ心がとても温かくなりました。インドネシアの人々は本当に親切で、自分の時間を削って、私たちの日用品の買い物に付き合ってくれたり、タクシーの手配をしてくれたり、週末のお出かけのプランも提案してくれて同行までしてくれました。何度もお礼を言いましたが、皆さん決まってインドネシアに来てくれたお客様だから！気にしないで！大丈夫！と答えます。本当にうれしさいっぱいになりました。日本はおもてなしの国ですが、逆の立場になったとき、同じようなおもてなしができるのでしょうか。ルームメイトの留学生の友達にも初めて日本に来たときこんなふうに優しくされなかった、日本人はもっと冷たいと言われ、とても反省しました。私は、今までの大学生活で留学生と関わることもなかったし、積極的に声をかけようともしていませんでした。大学内や街で

外国人をみかけることはあっても無関心、日本に来てくれてありがとう！と思ったことなどなかったと実感しました。私たちはたまたま、とても親切なインドネシア人ばかりに出会えたのかもしれませんが。それでも今回の私たち日本人チームにはインドネシア人はとても親切でインドネシアはいい国だった、という印象が残ります。それは、海外の方が私たち日本人、日本に対する印象を持つ時も同じだと思います。今まで無関心に生きてきた分気持ちを変えて、外国人留学生の子とこれを機会にもっと交流を持ち、国際的な交流をするときには自分が日本人代表となることを忘れずに生活していきたいと思います。

さらに、コミュニケーションにおいても周りの人のフレンドリーさに助けられることが多かったです。私は普段から積極的に人とコミュニケーションをとるほうではなかったし、人見知りや打ち解けるのに時間がかかるタイプでした。それに加えて英語力もそんなになく、とても不安でした。ですが、まず日本人チームの皆さんがとてもいい人ばかりで、英語が分からない時は翻訳したり、授業中もアシストしたりしてくれました。台湾人の学生のみんなもとても優しく、よりわかりやすい英語に言い直して積極的に話しかけてくれました。みんなの会話が分かっていても、それに対応する受け答えがすぐにできないのは本当に悔しかったです。これからもっと英語を勉強したいと思いました。しかし、笑顔でいること、話をしようという姿勢を持つことがコミュニケーションにおいては英語力以上に大事であると実感しました。私は今までその点で怠っていた部分が大きかったと思います。それを自分自身で気付けたことは大きな成果だったと思います。

このサマープログラムで自分の専門分野について学んだことはこれからの研究に生かし、人との関わりの中で学んだことはこれから一生大事にしていきたいと思います。